

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 現代陶芸美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 49,434 千円 (前年度予算額： 55,536 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	55,536	16,304	0	9,532	0	0	2,000	0	27,700
要求額	49,434	10,845	0	15,653	0	0	2,000	0	20,936
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・岐阜県現代陶芸美術館の収蔵品等を多角的視点から展示
- ・国内からの借用作品による多彩なテーマの企画展示

(2) 事業内容

○企画展開催事業費

① 「大地のこどもたち展」[特別展]

令和5年7月29日(土)～令和5年8月27日(日)：26日間

② 「三島喜美代展(仮)」[特別展]

令和5年9月16日(土)～11月26日(日)：62日間

③ 「フィンランド・ガラスアート、ムーミン展」[特別展](巡回)

令和5年12月16日(土)～令和6年3月3日(日)：63日間

○コレクション展[常設展]開催事業費

① 「コレクション展1」[企画展]

- ・コレクション・ハイライト、令和4度新収蔵品展、豊場展
- 令和5年4月16日(土)～8月27日(日)

② 「コレクション展2」[企画展]

- ・コレクション・ハイライト、作家シリーズ展
- 令和5年12月16日(土)～令和6年3月3日(日)

○デジタル・アーカイブ

- ・美術作品等のデジタル化

○準備費

- ・令和6年度以降の企画展等の準備、調査

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	348	謝金
旅費	1,485	職員旅費、講師等費用弁償
消耗品費	1,165	展示用消耗品、配布用図録費
会議費	13	講師会議
役務費	2,114	通信運搬費
委託料	28,891	展示等業務委託料
使用料	1,589	会場借上料
負担金	13,829	巡回展負担金
合計	49,434	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【特別展〔自主企画・巡回〕】

当館の基本方針に沿った分野の展覧会（三島喜美代展）、教育普及特別展（大地の子どもたち展）、巡回展として好評である工芸分野（フィンランドグラス展）により、様々な作品を紹介する。これらにより新たな来館者を獲得するとともに、県民の陶芸等芸術文化に関する知識・教養の向上及び県陶磁器産業の発展に寄与する。

- (1) 「大地の子どもたち展」 特別展
- (2) 「三島喜美代展」 特別展
- (3) 「フィンランド・グラスアート、ムーミン展」巡回展

【企画展〔コレクション常設〕】

当館のコレクションに基づいて、幾つかの観点から展覧会を計画している。

第1期は、作家シリーズとして「豊場惺也展」、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、令和4年度に収蔵した作品を展示する。第2期は、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、テーマに基づく作品群を展示する。

中でも、コレクション・ハイライトには一室を配し、当館の魅力的な収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介するもので、これによりふらりと立ち寄った方が、いつでも当館所蔵の名品を鑑賞できることになる。

以上のように、特別展〔自主企画・巡回展〕と企画展〔コレクションを中心とした常設展〕の双方で、多角的で魅力的な展示事業を展開する。

【デジタル・アーカイブ事業】

開館以来収集してきた美術作品や関連資料をデジタル化し、資料をデータベース化することにより、展覧会企画、教育普及活動等に活用する。それにより、当館の展覧会、教育普及活動が充実し、来館者の増加につなげることができる。

【準備費】

令和6年度以降に展示計画をしている企画展等の準備、調査をおこなう。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
① 入館者数		29,138	31,200	33,100		114%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	<p>○取組内容</p> <p>【企画展】</p> <p>① Human and Animal展（巡回展） 土に吹き込まれた命 令和3年4月24日～6月20日</p> <p>② 町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展（巡回展） —岩田藤七・久利・糸子— 令和3年7月10日～8月29日</p> <p>③ 台湾現代陶芸の力展（特別企画展） 台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館所蔵による 令和3年9月11日～10月31日</p> <p>【コレクション展[常設展]】</p> <p>① 「コレクション展1」 ・やきもののデザイン ・コレクション・ハイライト ・令和元年度新収蔵作品展 令和3年3月23日～令和3年7月25日</p> <p>② 「コレクション展2」 ・美濃の陶芸 ・コレクション・ハイライト ・令和2年度新収蔵作品展 令和3年8月7日～10月31日</p>
令和3年度	<p>○成果</p> <p>【企画展】</p> <p>① 「Human and Animal」展（巡回展）は、人と動物という根源的なモチーフに土素材を通じて向き合う国内外の5作家作品で紹介した。身近ないきものを中心とした作品が多く、子どもから大人まで楽しめる展覧会で好評につき、多く美術ファン層を開拓できた。ただし、ゴールデンウィーク後は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、外出自粛ムードと重なったこともあり一時伸び悩んだ。</p> <p>② 「岩田色ガラス」展（巡回展）は、町田市立博物館のコレクションを厳選して紹介することをはじめ、当館では「岐阜県美術館所蔵 もう一人のパイオニア 各務鑛三 クリスタルガラスの世界」と銘打ち、多治見市出身の各務鑛三の作品を紹介したことで、来館者（地元）の関心をさらに高めることができた。</p> <p>③ 「台湾現代陶芸の力」展では、進化し続ける台湾現代陶芸を、台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館のコレクションを通じて紹介する。台湾は国際的な陶芸のコンペを実施しており、陶磁器については世界的に有名である。このことから、本展覧会は、今回の国際陶磁器フェスティバル美濃に合わせ、多くの集客を見込んでいる。</p> <p>【コレクション展[常設展]】</p> <p>① 「やきもののデザイン」では、当館所蔵の柱のひとつ、実用陶器コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介した。日常的に使用する産業陶器名と比較想像しながら、それぞれの感じ方で、様々に思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただいた。</p> <p>「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただくことができた。</p>

「新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができた。

② 「美濃の陶芸」では、当館所蔵の柱のひとつ、美濃陶芸関係コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介する。美濃の地域性から、それぞれの感じ方で、様々に思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただく。

「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただく。

「新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信する。

「令和2年度新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができる。

本年度は、11月より(次年度・令和4年9月上旬まで)、美術館を含めたセラミックパーク全体において空調と照明の改修工事が行われる。工事期間中、当館は休館となるが、「サテライトミュージアム」として、瑞浪市陶磁資料館(11/20～2/20)、神戸市の日比野五鳳記念美術館(12/11～1/23)、飛騨市美術館(2/5～3/13)の展示スペースを借用して、当館の収蔵品を展示・披露する。

指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

令和6年度当初予算にて追加

令和4年度

指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	近現代の国内外の優れた陶芸文化を紹介する展示事業は、子どもや若い世代の感性を育てる教育的事業であるとともに、美術ファンを含む県民のニーズに対応する文化事業として重要である。また、地元陶磁器産業や作家等と連動し、その活性化に資する点で必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	平成14年の開館以来、多様な展示活動によって、世界の優れた陶芸を身近に鑑賞できる施設として認知されてきた。また、地域に根差した展示活動についても評価されている。令和3年度は、陶芸専門館として、国内外作家の現代陶芸や、陶芸にかかわる工芸領域のガラス作品などの展示などから、県民の多様なニーズに対応することができた。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	所蔵品を生かすと同時に、魅力発信事業を企画展と連動させるなどして、展覧会の多角的な展開を図った。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、催事等の事業が中止・延期となったが、一部はオンライン代替などで対応することもできた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 令和4年度前半は、新型コロナウイルス感染症による、当初予定していた学校をはじめとした普及活動や、来館イベントを中止・延期したりすることはほとんどなく、オンラインでの代替開催も予定して実施した。令和5年度も感染状況を把握しながら、来館者にとって安心安全な環境をつくり、魅力的な展覧会を開催できるよう臨機応変に対応する必要がある。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

当館は、国内外の様々な優れた陶芸作品が見られると同時に、様々な県民や美術ファンのニーズに答えるべく、美術館活動を実践してきた。その上で、近年は陶芸を隣接ジャンルや他ジャンルと関連付け、陶芸の領域を越える広い視野から展示活動を行ってほしい、といった声にも応えている。

今後も当館の展示活動の基本方針に基づきつつも、より斬新な視点で県民の要望に応えるため、創意工夫を行っていく。

作家や作品、所蔵家に対する情報を常に集める努力をしながら、展示と収集に向けて積極的に取り組む。

また新型コロナウイルス感染症対策に努め、来館者にとって安全に鑑賞できる環境を提供するとともに、令和5年度は開館20周年を迎えた館として、施設・設備の更新に怠りなく努め、展示・保存環境の向上を目指していく。

さらに、地域や国内、海外の陶芸館との連携強化を進めていくことも重要と考えて取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせる理由
や期待する効果 など